

第6次高浜市総合計画推進会議（第7回） 会議録			
日 時	平成25年3月22日（金）午後7時00分～8時15分		
場 所	高浜市役所 第2会議室（4階）	傍聴人数	9名
出席者	委 員	中川幾郎、小笠原芳夫、中川勝利、竹内一仁、鈴木康博、神谷環光、竹内亨弘、井野代司彦、杉浦盛仁、古橋知美、神谷通夫、杉浦幸七 (12名出席)	
	行 政	財務グループ リーダー 竹内正夫（財政分科会リーダー） 文化スポーツグループ リーダー 内藤克己（生涯学習分科会リーダー） 教育センターグループ 主 幹 梅田 稔（学校教育分科会リーダー） 経営戦略グループ リーダー 山本時雄（産業・観光分科会リーダー） 市民生活グループ リーダー 山下浩二（環境・憩い分科会リーダー） 都市防災グループ リーダー 芝田啓二（防犯・防災分科会リーダー） 保健福祉グループ リーダー 加藤一志（健康分科会リーダー） (7名出席)	
	事務局	企画部長 加藤元久 地域政策グループ リーダー 岡島正明（自治推進分科会リーダー） 同 主 幹 三井まゆみ 同 主 査 井野昌尚 同 主 査 鈴木明美 同 主 査 山本久美 同 主 事 江坂摩由里 同 主 事 中村彩 同 主 事 市橋知樹 (9名出席)	
次 第	1 あいさつ 2 議題 1) 「高浜市の未来を創る市民会議」のあり方について 2) 平成25年度「高浜市の未来を創る市民会議」スケジュールについて 3 その他 1) 前期基本計画の推進および中期基本計画（素案）の検討の体制について		
資 料	資料1：第6次高浜市総合計画推進会議（第6回）会議録 資料2：平成24年度「高浜市の未来を創る市民会議」を振り返って【資料編】 資料3：「高浜市の未来を創る市民会議」のあり方について（提言）【案】 資料4：平成25年度「高浜市の未来を創る市民会議」スケジュール（イメージ） 資料5：前期基本計画の推進および中期基本計画（素案）検討の体制図		

1. あいさつ

- ・第7回推進会議を始めさせていただく。・第6次総合計画がスタートして2年、市民の皆さんと職員の皆さんが一緒になって、市民会議を通じて、目標達成に向けてアイデアを出したり、行動したり、力を合わせて取り組んできた。
- ・来年度は、前期基本計画の総仕上げということで、市民会議の皆さんには、より一層目標達成のための取り組みにご協力いただくという年となる。
- ・本日は、まずは、この1年間の市民会議の取組みを振り返り、来年度の市民会議がより良いものとなるように、良かった点、あるいは、課題・見直すべき点を洗い出し、会議の最後に、「市民会議のあり方について」の提言書を、市長へ提出したい。

2. 議題

1) 「高浜市の未来を創る市民会議」のあり方について

事務局より、資料2『平成24年度「高浜市の未来を創る市民会議」を振り返って【資料編】』、資料3『「高浜市の未来を創る市民会議」のあり方について（提言）【案】』を基に説明。

①資料3本文2行目の“別紙の課題と”を“別紙のとおり”に修正

②資料3別紙の「4. 連携のあり方」2行目の“連携がすると”を“連携すると”に修正
以上2点の修正を提案。

【意見等】

- 会 長： ・資料2は、市民会議メンバーにお尋ねしたアンケートと、推進会議からのご意見、職員の振り返り、事務局による総括をとりまとめたものである。
- ・資料3は、推進会議から市長あての提言書の案ということで、資料2の中から、来年度に向けて、見直すべき課題・改善点について、エッセンスを取り出して、提言としてまとめられたものである。
- ・この提言は、来年度の市民会議の企画・立案に活かしていただけるよう、今日、提出したい。よく目を通していただき、表現等、修正箇所があったら、ご指摘いただき、修正して、提出に臨みたい。
- ・提出にあたっては、資料2と資料3をセットにして、市長へ提出する。委員の皆さんの想いをくみ取って、来年度の運営に活かしていただきたい。
- 委 員： ・福祉は、一緒に声を出し合って、力を合わせていくことが多く、中期基本計画の期間に向けては、連携してやっていくことが大事であると考えている。
- 事務局提案のと通りの修正で、異議なし—

2) 平成25年度「高浜市の未来を創る市民会議」スケジュールについて

事務局より、資料4『平成25年度「高浜市の未来を創る市民会議」スケジュール（イメージ）』を基に説明。

【意見等】

- 委 員： ・点検・確認とは、昨年度は今頃の時期にやっていた内容のことか。8月に何の評価をするのか、よく分からない。

- 事務局： ・平成 24 年度の事業について評価を行っていただく。時期が遅いと思われるかもしれないが、市民意識調査のアンケート発送が 4 月後半、5 月中に集計し、結果がまとまるのが 6 月頃となる。また、行政評価委員会にて、施策評価の基となる事務事業を評価し、その結果がまとまるのが 7 月中下旬頃になる。その後にならないと、行政内部での評価がまとまってこないため、8 月頃の点検・確認をお願いしたい。
- 委員： ・資料 4 別紙の「連携」の②「相思相愛なら連携を！」ということは、相思相愛でなければ、実施できないということか。
- 事務局： ・今の分科会活動は、縦割りになっており、一緒に取り組む方が効果的だと思うものがあれば取り組んでいただきたいが、あれもこれもはできない。テーマで言えば、2 つくらいが限度ではないか。
- ・例えば、防災分野では、標高の見える化を推進したいというところに、地域福祉分野から要援護者の関係で一緒に取り組みたいと要望があった際に、防災分野では標高の見える化の推進がまずは大事だと思われた場合は実施できない、ということで相思相愛という言葉で記載させていただいた。
- ・相互に折り合いがつけば、連携して取り組んでいただきたい。
- 委員： ・以前、各分科会のテーマを表にさせていただいたが、いくつかある連携した方が良いテーマの内、優先順位の高いものから取り組んでいくために、あのような表を使って示していただけののかと思っていた。
- 事務局： ・連携のテーマについては、まずは、各分科会の中で、市民リーダーと職員リーダーが来年は何に取り組みたいのかを検討し、そこから他の分科会と連携したいことがあれば、職員リーダーが中心に模索するという流れである。5 月末までにテーマを決めていただくというスケジュールになっているため、市民リーダーと職員リーダーで事前に協議し、連携した方が良いと思えば、連携の方向で調整していただきたい。

3. その他

1) 前期基本計画の推進および中期基本計画（素案）の検討の体制について

事務局より、資料 5 『前期基本計画の推進および中期基本計画（素案）検討の体制図』を基に説明。

- 会長： ・推進会議と審議会が並行していくというイメージである。
- ・推進会議は、前期基本計画を実現するための推進協力・調整機関。市民会議と両輪になりながら展開する推進組織である。
- ・審議会は、元々は、総合計画を作るためには設置しなければならない法律上の設置機関であった。地方自治法上の義務付けはなくなったが、高浜市では、総合計画を大切にしていくということで、独自に審議会を設置し、諮問していただいて、中期基本計画が出来上がっていくことになる。これは平成 26 年度以降の計画であるが、その間にも、前期基本計画は進んで

いるため、推進会議・市民会議はその推進にご尽力いただく。

- ・前期基本計画を進める推進会議・市民会議と、中期基本計画を作る審議会が別個で動くのではなく、情報を共有しながら進めていくということである。

—質疑なし—

事務局：市民会議第3期メンバー募集について

- ・前回の市民会議、また、広報等で現在呼びかけを行っている。職員メンバーが4月中旬頃に確定するため、その後、市民リーダーとも相談しながら、市民メンバーの掘り起こしを行っていきたい。こんな方がいるよ、という情報もお寄せいただきたい。

会 長：・全ての案件が済んだ。ここで、委員の皆さんから、この1年間関わって感じたこと、今後に向けてのお気持ちなどを、1人2分程度で伺いたい。

委 員：・3月1日の市民会議の盛り上がりは、本当に感動した。各職員リーダーが、自信を持って、言葉を全て自分のものにして、しっかりテーマについて説明をしていた。分科会でもそうだが、職員もしっかり入り込んで、将来のあり方を話していただき、こうもレベルアップするのかなと思った。

- ・振り返りについては、事務局がよく整理しており、上手に資料を作っている。昨年などの資料と比較してみると、ご理解いただけると思うが、見やすくなり、文字の建蔽率も見直されている。

- ・管理職のレベルアップ、事務局の粘りといった強さを土壌にして進めていけば、3年目はより良くなるのではないかなと思う。昨年度末は、夢を描いたような発表会だった。今年度は、1つ1つは小さなテーマもあるが、具体的な「実行」が見えるものだった。3年目は、それを見直し、評価して、次のステップにつながっていく。事務局が進めるイメージ通りに順調に進んでいると思う。良い勉強をさせていただいた。

委 員：・みんなが一生懸命取り組んでいるのがとても印象的な1年であった。

- ・標高の見える化のできることから取り組もうということで、まずは、電柱を中心に600箇所シールを貼ることができた。第2ステップとしては、分科会メンバーが各小学校区単位に分かれ、コンビニやスーパーなどを戸別訪問して、70数箇所にお渡しすることができた。せっかく市内にシールを貼ったため、それを活かして、次のステップをどうしていくか、これから検討したい。

- ・今は、防災を考える大事な時期。一生懸命やっていきたい。今後ともご協力をよろしくお願ひしたい。

委 員：・分科会を開催するごとに、垣根が取れ、打ち解けて、いろいろと面白い話が出るようになった。最初はなかなか意見されなかった方も、後半は発言されるようになり、良かったと思う。

- ・資料もとても分かりやすくなった。最初は、分からない部分、理解しづらい部分があったが、整理されて、見やすくなった。

- ・垣根が取れて、仲良くできるというのは、次世代リーダー育成のためにも、重要なこと。とても良い会議になると思う。
- 委員：
- ・まちのことを真剣に考えるメンバーに恵まれ、話し合いも充実していた。前々から、連携について話をしているが、では、自分自身、市民会議で各分科会が発表する際に、“聴く”だけではなく、どう“参加”できたかと反省している。「連携したい」と言って、一方的なラブコールでは相思相愛にはならない。他の分科会に飛び込んで、一緒にできることは一緒にやっていくことが必要と思っている。少しずつ広げていけたら良い。福祉の分野は、どこの分科会にも関わってくるとしている。
 - ・発表会で、New ボランティア人認定書を配ったが、その場で記入していただいた方はいたか。(→いない) ということは、あの場で記入してくださいと伝えてはいたが、伝え方が悪かったのだと思う。各分科会のリーダーも、他の分科会がどんなことに取り組んでいるのか、興味を持っていただけると、連携しやすくなると思う。
 - ・机の上のにらめっこだけでなく、ポッチャを広めるためにも、分科会対抗のポッチャ大会もやりたいと思っている。市民に目で見て届くものを考えていきたい。
- 委員：
- ・市民会議も、推進会議も、楽しく席に着かせていただいた。分科会メンバーの中で一番楽しんだと思っている。
 - ・市民では分からない部分を、職員リーダーには上手にリードしていただいた。
 - ・サンビレッジ衣浦に行った際、いきいき健康マイレージで貯めた点数で来ているという話を聞いた。驚いたし、嬉しかった。市民に少しずつ浸透してきたのだと満足している。これからも分科会がどう進んでいくか、楽しみにしている。
- 委員：
- ・2年間で、行政の取り回しも含め、推進会議と市民会議の大きな目的である、行政職員の育成と向上が図られていると思う。この会議だけでなく、現場でもその力を発揮していただきたい。
 - ・市役所では、“粗利”、“分配率”という考えがない。収入が非常に大切なとき。そういった部分を、職員に理解いただき、この先どうするか考えていただけるよう、一緒に考えていきたい。
- 委員：
- ・自治基本条例をどう市民に伝えるかということで、まず子どもに伝えることが大事であると考え、目的・目標を絞ったことが上手くいった一番の理由だと思う。試行的に実施した高浜小学校の6年生からは、非常に良い反応があった。出前授業実施後、すぐに子どもたちから、まちづくりについてよく分かった、私たちもまちづくりにチャレンジしたいという話が挙がり、6年生全員で何に取り組むか考え、テーマごとに分かれて、大山緑地や道路の清掃、まちの自慢調査などを行ってくれた。本当に良かった。この授業では、市民会議初参加の女性メンバーのおかげで、とても雰囲気

良くなったと思う。

- ・職員メンバーは、上手に学校と調整してくれたということが後から分かった。3月2日、安城市で“自治基本条例をどう広げるか”をテーマにした、4市1町によるフォーラムに参加してきた。その中で高浜市の出前授業の事例を話したら、反響が大きく、やりたくてもやれないという声が多くあった。高浜市は、普段から、職員が学校とよくコミュニケーションを取っているため、受けていただけたのだと思う。市民は「やりたい」と言っただけ。ありがたかった。また来年度、全小学校で実施するが、まずは、今年度、上手くいったと思う。

- 委員：
- ・今年度は職員も良いメンバーに恵まれ、活発な議論ができ、いろいろ助けられた。
 - ・推進会議の委員も含め、新陳代謝をしっかりと考えないと広がらない。いろいろな会合で、同じメンバーをよく見る。
 - ・イベントの実施を考え、盛り上げたり、あれもこれもと夢を大きくするのは簡単だが、できることとできないこと、いろいろな団体がすでに実施していることをしっかり精査して、できるレベルで、市民メンバーの負荷もできるだけかからない方法を考えなければいけない。あれもこれもやりたいことが出てきてしまうが、夢を語るだけでなく、現役世代もできる範囲で行いたい。

- 委員：
- ・昨年度策定した教育基本構想を中心に立ち上がっている委員会に、分科会はぶら下がる形で活動していた。教育基本構想の推進は、規模が大きく、苦労が多かったと思う。市民側は、身近な学校支援という形で関わることができ、士気が上がったが、来年度、どう実際の動きにつなげるのかしっかり考えていかなければいけない。引き続き楽しくやっていきたい。

- 委員：
- ・市民、職員に助けられ運営ができた。
 - ・分科会の範囲で言うと、観光分野は観光協会・商工会が、産業分野は各企業が、コミュニティ・ビジネスも起業を考えている人が、それぞれ頑張っている。そこで、分科会では、1年間、特産野菜に特化して取り組んできたが、まだ“エンジン”とまではいかない。
 - ・来年は、特産野菜が少しでもたくさん売れると良いと思っている。新しい方に入っていただき、新しい知恵で汗をかきたい。

- 委員：
- ・市民リーダーの皆さんには、感謝申し上げる。
 - ・常々、分科会活動は職員の役割が大きい、座っているだけではダメ、どう達成しようと思っているのか思いが伝わるよう、市民リーダーと事前打合せを充分に行うように、と言っているが、どうだったか。今の皆さんのコメントを聞いて、少しはできたのかと思った。
 - ・見える化と見せる化に加え、話せる化と聴ける化の4つの能力が大事であると考えている。話せる化は、職員にとって、今後、今以上に必要になっ

てくると思う。相手の立場に立って、相手が理解できるように説明する能力は不可欠。聴ける化は、単に相手の言い分だけを聞くのではなく、話の内容をしっかりと理解し、相手に返すことが求められる。来年度、職員力がさらに向上するよう、市民リーダーの皆さんのご支援をいただきたい。

会 長： ・今日は、後ろの席に職員リーダーの皆さんも出席しているため、何人かの方に同じように伺ってみたい。

行 政： ・学校に携わる人間として、皆さんのコメントを聴き、非常に嬉しいと感じた。特に学校教育分科会では、市民の皆さんに、学校に入っただき、学校の中の行事や先生の実践、子どもの表情をじかに見ていただき、今の学校に対して、どう協力していけるかという前向きな雰囲気が進んできた。子どものことを考えてくれているということを、学校の職員も含め、感じている。

・自治基本条例の関係では、出前授業について、自治推進分科会が高浜小学校の授業に取り組む前の模擬授業で、足りない部分などを指導してほしいということで、参加させていただいた。あの時、分科会メンバーの、“子どもにこういうことを伝えたい”という熱心さが、よく分かった。技術的にはプロではないため、直すと良いという部分を伝えたが、実際に3時間出前授業を行っていただき、実践で子どもに結びついている。

・子どもたちが、まさに、高浜市の一員として生きていくということを実感、体感できたことが嬉しかった。一人ひとりの子どもが、何かを得て、学校の授業だけでは学べないことを学ぶことができたと思う。

・子どもは高浜市の今後の財産である。どの分科会も子どもの視点を考えていると思う。学校教育分科会にも助けていただきながら、高浜市に貢献できる子どもが育成できると思う。

行 政： ・防災分野では、標高サイン設置の第2ステップとして郵便局、金融機関、コンビニなどに協力いただけた。防犯分野では、あいさつは防犯の第一歩ということで、あいさつ運動の推進として、小学校での啓発を行っている。

・いずれも、分科会メンバーが苦勞を惜しまず、現場に出ていってくださり、現場を大事にしているメンバーがそろった。職員も見習わなければならないと感じた。来年度も現場を大事に取り組んでいきたい。

行 政： ・環境は、いろいろなものに試験的に取り組んでみて、効果のあるものとならないものを見極めていくことが必要と思っている。行政は失敗が許されない文化があり、綿密な計画を練る。市民会議は、トライができる現場。参画いただいたメンバーは、志半ばだと思つたため、現在、引き続き参加を呼びかけている。トライできる現場を大事にしていきたい。引き続きよろしくお願ひしたい

- 会長：
- ・市民同士の仲間関係、ネットワークが広がり、厚くなって、密度が高くなっている。職員の習熟度が上がった、信頼関係が厚くなっている、という話がたくさん出て、ほぼ委員全員からいただけるというのは、職員は誇りに思っている。このレベルを後退させず、再選される委員と共有するためにも、委員の皆さんのお目利きによって、メンバーをご推薦いただきたい。
 - ・職員リーダーが評価されているのは、単なるつなぎ、中継の役割ではなく、問題・課題を的確に把握し、上手に整理したためである。特に資料整理は抜群の評価をいただいている。この協働システムが、深く広がっていくことを願っている。

・今後の日程

第1回推進会議：5月8日（水）

第2回推進会議：7月24日（水）

第3回推進会議：9月25日（水）

- ・議事録は書面表決とする。

—終了後、提言書を市長へ提出—

市長あいさつ

- ・委員の皆さんには、貴重なご意見をいただき、市民会議のあり方をまとめていただき、感謝申し上げます。
- ・高浜市では今、とんでもないことが起きていると思う。職員もそうだと思うが、総合計画を意識して、市民がまちの中で活動することが、いまだかつてあったか。行政も“絵に描いた餅”とは言わないが、総合計画は、掲げるだけのものであり、行政はいろいろ取り組んでいるが、まちが上手くいってれば、それで良いというものではなかったか。総合計画を進めるに当たり、市民が総合計画の推進に向かって、行政にこういう風にした方が良いとか、私たちは、こうやって協力する、と行動を起こしていただいていることが、普通に行われていることに驚きと感謝を申し上げます。
- ・この後、総まとめの1年が始まる。前期基本計画が、中期基本計画作りと並行して進むため、経験者である委員の皆さんの貴重な意見もしっかり反映しながら、10年後の“大家族たかはま”を目指すベクトルがそろそろような、推進会議であり市民会議であってほしい。
- ・皆さんのご協力をいただくことと、総合計画を意識せずに、皆さんがまちの中でそれぞれ活躍し、高浜市を創っていくことを願って、引き続きのご協力をお願いと感謝を申し上げます。